

★事務所移轉

この追政援會東京赤支却協議會は産勞に事務所を置いた居たが、今日から、牛込区富久町三十八番地古屋井が、事務所に移轉する(市電新宿若下目下車)連絡差入品は、今迄新事務所に持参されたし。

★寄附・差入

(四月十二日より四月二十二日迄)

寄附金 三三三
附金 三三三
總額 九九三
支

市位業員組合 五円
北都支却連合会 二円五十銭
上智女子有志 一円五十銭
細色氏(高島通) 十円
東都氏 五円
城南市佐班 六円七十五銭
木下支那(荒川全九居等) 五十二人、諸君ヨリ
城南支連 拾五円三十銭
市川浴場氏 五十銭
寄附金小計 四十二円五十銭
その他衣類、書籍多敷

差入小計 八六四
計 三四三
支

現金差入 七十四円
(二十四人分)
物品購金入 十円五十五銭
雑費 七円八十八銭

★京橋各工場に救援運動進む

京橋地方では、早くより各新南社、書籍店等を中心として、救援運動がなされて来たが、愈々来るに及ぶにつれて、各工場に救援運動が波及して来た。救援運動は、工場に波及して来た。救援運動は、工場に波及して来た。救援運動は、工場に波及して来た。

宣言

昭和二年五月十五日未明を期しての日本共産党大檢舉事件をきっかけとして、天無制限の投機、均出、検査、暴卒の大暴風の中心、四月十日、光輝ある労働農民党は解散せられた。

われ等は直ちに新労働党組織準備委員会組織して一踏、われ等の党の専運の進路を初めた。だが、その道は勿論、平等組には存した。支配階級はわが戦斗的組織を徹底的に破壊した。その中心として益々、機軸が鋭化して来た。我等は在居、信者、言の輪集會の全き深淵の中へ、拙劣検査の危険の中へ、夏に疫病の如き逆宣傳の中心、然も勇敢なる前衛士達の尊び去らぬし後を受けて戦はねばならぬ。

而も我等の敵は真正面の資本家地主ばかりではなかつた。資本家地主の政府に依つて保証せられたる言論集會結社の自由を提中して、それを持たせる。我等の陣営の分割無力化を策し、労働者農民の利益を資本家地主の祭壇に獻せんとする獅子の如く、の如く、戦はねばならぬ。

我等の敵は斯くの如き列強華艦を盡し得ざる困難の中にも、大ゆみなく進められ、新聞紙、週刊紙、週刊紙を離れせられ、各地の同志はよく皆その部署